

令和2年度 年度末自己評価書

愛南町立長月小学校

		上段 中間期		下段 年度末									
		評価規準 A:目標を達成 B:8割以上達成 C:6割以上達成 D:6割未満											
評価項目	評価指標及び目標値(期待される姿)	評定	学校による考察(◇) 改善方策(◆)		評価資料	個別評価	肯定率 4+3	アンケート平均値(100%満点)					
			4	3				2	1	?			
豊かな心を育てる教育の創造	あいさつ・返事運動の推進	B	◇児童・保護者の肯定率が地域に比べると低くなっている。新型コロナウイルス感染症予防のため、マスク着用、大きな声を出さないという指導をしていることで、明るいあいさつができていないと捉えている児童もおり、肯定率が低くなったと考えられる。登校時、正門前では、明るく丁寧にあいさつをするなど、見守り活動をして下さっている地域の方へはよくできている。返事については、授業中など公の場では高学年を中心によくできているが、どんな場でもできているとはいえない。 ◆マスクをした状態でも丁寧なあいさつができるよう、継続して指導をしていく。表情が見えないため、声の明るさが大切であることを声掛けしたり、教師が示したりするなど、その都度指導をする。返事については、特に、授業中は「できるまで」「何度でも」という意識を持ち、共通理解を図って指導していく。		児童6	B	88	47	41	12	0	0	0
		A	◇児童・保護者・地域共に「あいさつ・返事ができている」と回答している。特に、地域の評価が良くなっていることから、登下校時のあいさつはよくできていると考えられる。返事については、中間期の改善方策として「できるまで」「何度でも」という意識で全教職員が指導に取り組んだことで、評価が上がった。しかし、校内では、あいさつ、返事に共にできる児童とそうでない児童に差がある。 ◆校内でのあいさつの際に、教師が児童の目線に立って顔を見てあいさつをするなど、気持ちのよいあいさつを体感させ、自分自身のあいさつに生かしていけるよう指導していく。また、あいさつや返事がよくできている児童を紹介し、手本とさせることで全体の質を向上させていく。引き続き、返事についてもやり直しを行わせるよう、徹底した指導を続けていく。		児童6	A	100	35	65	0	0	0	
豊かな心を育てる教育の創造	生命尊重の育成	A	◇食育の取組は昨年度で終わったが、野菜を育てたり、カモを育てたり、学校のまわりで捕まえた生き物を育てたりする取り組みにより、児童は命の大切さを実感していると考えられる。また、そのような活動と関連させて、道徳や学活の授業を行うことにより、更に生命尊重の心情が高まっていると思われる。 ◆これからも継続して、生命尊重の心情を育てるような体験活動を行うようにする。また、3評価から4評価に上がるように、体験活動と関連させた道徳科や学級活動等を計画的に行うようにする。		教職員3	A	100	43	57	0	0	0	
		A	◇中間期に引き続き、栽培活動を積極的に行っていることで、生命を尊重する心情が高まっていると考えられる。また、教育活動全体で自分を大切にし、周りの友達のように見つけるところを続けているという活動を続けていることも、自尊感情を育て、生命尊重の育成につながっていると考えられる。新型コロナウイルス感染症対策を通して、自分や周りの人の命を守ろうという意識を強く持つこともできた。さらに、交通安全についての指導を継続していることで自分の命を自分で守ろうという心情が高まったと考えられる。 ◆これからも主に道徳や学級活動を通して、生命尊重の心情を育てるようにするとともに、周りの友達も大切にすることを継続していく。また、感染症対策の徹底や交通安全指導も継続し、自分の命は自分で守る力を高めさせる。		児童7	A	100	59	41	0	0	0	
豊かな心を育てる教育の創造	自尊感情の醸成	A	◇児童・保護者・地域共に肯定率が9割を超えている。今年度の学校経営の重点として挙げ、各学級で自尊感情の醸成のための具体的な方策がとられている。また、縦割り班活動や児童会活動により、児童同士の関わりを多くすることで、児童が自分の頑張りを感じたり、友達から褒められたりする機会が増えたことが要因ではないかと感じる。 ◆少人数ではあるが、自分のよさに気付いていなかったり、友達に優しくできなかったりすると回答した児童や保護者もいる。今後も自尊感情の醸成の取組を継続して進めるとともに、小さなことでも気になる言動があれば素早い対応をしていきたい。		教職員6	A	100	57	43	0	0	0	
		A	◇児童・保護者・地域共に肯定率が9割を超えている。2学期も継続して各学級、児童会活動、縦割り班活動等で自分や友達のよさに気付くような取り組みを行った。また、運動会やコスモス祭り、親子マラソン大会等では、保護者や地域の方にも褒める言葉をいただいたのも児童の励みになっている。校区別人権・同和教育懇談会では、授業や講演会を通して、自分の大切さとともに、他の人への思いやり、認めたり許したりすることの大切さを学ぶことができ、さらに自尊感情や他者理解を深めることができた。 ◆全体的に見ると、児童はみんな落ち着いて学校生活を過ごしている。しかし、小さなトラブルはあるので、小さなことを見逃さず、しっかりと話を聞いたり指導したりしていくことが大切である。広い視野でアンテナを張り、児童全員が気持ちよく過ごせるようにしたい。また、頑張ったことに対しては褒めたり認めたりすることで自尊感情を育て、周りの友達も大切にすることを継続していく。		児童9	A	100	47	53	0	0	0	
豊かな心を育てる教育の創造	特別支援教育の推進	A	◇教職員・児童・保護者全てにおいて肯定率が9割を超えている。児童・保護者については、デジタル教科書の導入により興味・関心を持たせながら分かる授業を実践したことが高評価につながった。また、校内支援委員会を実施し、児童一人一人のニーズに合わせた個別の指導計画について共通理解を図ることができた。 ◆特別支援学級だけでなく、通常の学級においても、一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細かな指導や支援ができるように、手立てを明確にしていく。さらに特別支援教育についての理解が深まるよう、保護者に対して定期的に特別支援教育だよりを発行したり、学校だよりにより特別支援教育についての内容を載せたりするなどして啓発に努めたい。		教職員4	A	100	43	57	0	0	0	
		A	◇少人数の良さを生かし、一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細かな指導や支援を続けることで、高評価につながったと考えられる。また、特別支援教育だよりや学校だよりを活用した啓発活動を行うことができたことがよかった。 ◆校内支援委員会を定期的に実施し、一人一人の実態を全教職員で共通理解し、一貫した指導や支援を続けていく。関係機関との連携をさらに密にし、専門的な立場からの指導や助言をしてもらうことで一人一人のニーズに対応していきたい。		児童8	A	94	65	29	6	0	0	
豊かな心を育てる教育の創造	児童理解の充実	A	◇定期的な教育相談やアンケート、また、機会を捉えた教育相談を行うことで、問題の早期発見や早期対応に努めることができた。児童・保護者の中にいじめがややあると回答した方がいるので、さらに一人一人の悩みに寄り添いいじめの未然防止に努める必要がある。 ◆児童会が企画する全校遊びなど、児童同士のふれあいを積極的に取り入れ、好ましい人間関係作りを努める。また、教育相談やアンケートを通して知り得た情報を、児童を見つめる会などで情報共有しながら全教職員で指導に当たる。		教職員5	A	100	37	63	0	0	0	
		A	◇児童全員が「学校は楽しい」と答えており、保護者の肯定率も上がっている。児童を見つめる会、教育相談やアンケートなどで、児童の実態把握を行い、全教職員でいじめ・不登校等の未然防止に努めた。些細なトラブルが起こった際にも、児童の気持ちに寄り添いながら、早期対応することができたことはよかった。また、学級や児童会活動、学校行事を通して、自分や友達の良さに気付くような取組を行うことで、一人一人の自尊感情が高まり、友達に対して優しくできる児童が増えたことも要因の一つと考えられる。 ◆これからも道徳や学級活動の授業を通して、友達が嫌がることをしないという指導を続けていく。また、休み時間などの児童の様子をしっかりと観察すると共に、保護者や地域の方からの情報にも迅速に対応していく。そして、教職員間で情報の共有をしっかりと行っていく。		児童11	A	100	88	12	0	0	0	

		目標値:児童・保護者・地域の90%以上が肯定													
		目標値:教職員・児童・保護者の90%以上が肯定													
		目標値:教職員・児童・保護者の90%が肯定													
		目標値:教職員・児童・保護者・地域の100%が肯定													

令和2年度 年度末自己評価書

愛南町立長月小学校

				上段 中間期	下段 年度末								
評価項目		評価指標及び目標値(期待される姿)		評価規準 A:目標を達成 B:8割以上達成 C:6割以上達成 D:6割未満		評価資料	個別評価	肯定率 4+3	アンケート平均値(100%満点)				
				学校による考察(◇) 改善方策(◆)					4	3	2	1	?
食生活の確立	学校・家庭・地域が連携・協働し、食べる力=生きる力を付けるために望ましい食生活の確立に努めている。	B	◇児童・保護者・地域の肯定率は9割以上である。しかし教職員の意見が下がりB評価である。食育推進校として昨年度まで活動してきた内容が、今年度は新型コロナウイルスの感染予防のため全て実施できていないことが大きいと感じる。長月地域は学校へ惜しみない協力をしてくださるので、その気持ちが4評価8割を示しているのだと感じる。 ◆「サロン」の方との協働調理や、給食指導の様子を家庭へ配信、家庭の様子を報告してもらう等の相互連携をするなど、感染予防に配慮した活動を実践する。各学級の栽培活動から「生きる力を付ける」ための体験活動を行いそれを言語化したり、給食放送で食材の産地や生産者の様子を知ったりすることで、食が自分たちの生活をささげていることを知る。		教職員7	B	86	14	72	14	0		
			児童14	A	94	65	29	6	0				
					保護者11	A	100	35	65	0	0	0	
					地域3	A	100	80	13	0	0	0	7
	目標値:教職員・保護者・児童・地域の90%以上が肯定	A	◇肯定率が、9割以上である。臨時休業後、感染症対策を模索してきていなかった食事の給食指導が対策をとりながら少しずつ実施でき始めたことが教職員のA評価につながった。また2学期はお弁当の日の取組を実施した。昨年度とは方法を変えたが、1週間前から計画的に手伝う内容等を家庭と相談できた。給食での取組として昨年度行った親子給食試食会が実施できなかったことは学校での様子を伝えたり、家庭での食事マナーについて話をしたりする機会が持てず、残念なことである。給食放送を使い、栄養教諭から「食料のコロナでの生産者の苦労や、経済面の打撃」などについてメッセージを伝えることで、栄養指導だけでなく、給食や食事のありがたさ、感謝の気持ちを深めることができている。 ◆ 現在、新型コロナウイルス感染症対策のため、調理実習の制限や、会食中の私語の厳禁など、ふれあいのある食事時間が持てずにいるが、衛生的な服装や手洗い、食事の準備や片付けなどといった事前の指導内容を今後より一層定着させていきたい。保護者の評価結果から、食べることは「いのちをいただいていること」という食育の根拠が薄れていると感じるので、給食指導や掲示物を通し聴覚視覚に訴えた指導を工夫していきたい。		教職員7	A	100	38	62	0	0		
					児童14	A	100	77	23	0	0		
					保護者11	A	94	47	47	6	0	0	
					地域3	A	100	86	7	0	0	0	7
体づくりの推進	児童の実態に応じた体育科の指導や朝マラソン、えひめ子どもスポーツITスタジアムへの参加、パーフェクト自己新記録賞の活用により、体力・運動能力の向上に努めている。	A	◇児童・保護者・地域共に肯定率が9割を超えている。新型コロナウイルスの影響で、学校再開後の児童の体力はかなり落ちていると感じた。感染予防対策をしながら体育科の授業(水泳含)や朝マラソン、えひめ子どもスポーツITスタジアムの種目「8の字ジャンプ」への挑戦をして、体力の回復ができたと感じる。 ◆新体力テストについては、1学期に実施することができなかったため、2学期に実施する。パーフェクト自己新記録賞を目指して取り組みたい。		児童16	A	94	65	29	6	0		
			保護者12	A	94	65	29	6	0	0			
					地域4	A	100	87	7	0	0	6	
	目標値:児童・保護者・地域の90%以上が肯定	A	◇児童・保護者・地域共に肯定率が9割を超えている。2学期は運動会、新体力テスト、陸上大会、マラソン大会等体育的行事が予定通り行われ、運動に親しむ機会が多かった。新体力テストでは、5名がA級判定、8名がパーフェクト自己新記録賞になり、昨年度より多くなった。また、親子マラソン大会に向けて、ビブスを付けての朝マラソンの継続や毎回タイムを測定しながらの練習をすることで、児童自身が記録向上を意識して取り組んだ。大会では、児童が最後まで一生懸命走る姿を見ていただけたのではないと思う。 ◆新体力テストの結果を分析すると、本校児童はボールを投げる力が弱いということが分かった。ボールを投げる経験の不足ではないかと思われる。そこで、2学期に引き続き、体育の授業や補充の時間で、ボールを投げる活動を増やし、力を付けていこうと思う。		児童16	A	100	77	23	0	0		
					保護者12	A	94	59	35	6	0	0	
					地域4	A	100	86	14	0	0	0	
	自己新記録賞(前年度との比較)	A	自己新記録賞(前年度との比較) 昨年度 4人(22%) 今年度 8人(47%) ITスタジアムの参加回数と記録の伸び(1学期との比較) 1学期 参加回数2回 8の字跳び 低学年79回 中・高学年342回 2学期 参加回数2回 8の字跳び 低学年135回 中・高学年345回										
健康な生活習慣の確立	家庭と連携・協働し「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣を身に付け、健康的で望ましい生活習慣の確立に努めている。	B	◇児童・保護者共に肯定率が8割を超えているが、目標の9割は満たしていない。朝食摂取は高いが学年に合った就寝・起床時間が習慣化できていない児童が多い。朝のチェック時に実際の時刻を確認した上で、各家庭の事情を健康カードで把握している。 ◆今後、望ましい朝食の献立や朝食の必要性を指導する。就寝起床時間については、睡眠時間の確保が病気に負けない強い身体を築くこと、学力向上、精神的安定を図る上で重要であることを知り、実行できるよう保健日より放送で伝える。		児童17	B	88	65	23	12	0		
			保護者13	B	89	18	71	11	0	0			
	目標値:児童・保護者の90%以上が肯定	B	◇児童の肯定率が上がった。中間期に保護者は3評価が多数だったが、後期が4と2に少しずつ分かれているのは、臨時休業中の生活習慣の乱れが回復してきたものと推測できる。前期に朝食が取れずにいた児童がおり、学級担任からの働きかけで摂取率が上がったためである。保護者の結果から分かるように、就寝・起床時間の習慣化はできていないとはいえない。就寝時間を過ぎてのテレビやネット閲覧などの状況がみられる。また、起床については、年齢にそって家庭との連携だけでなく、児童本人への意識付けが必要である。 ◆就寝・起床時間については、就寝時間を前提として、ネットやゲーム時間などの我が家のルールを守ることを家庭や児童に伝えていくことが重要であるので、「自分で作ったルール」を守る気持ちや体への影響などを保健日より放送で伝える。起床が登校の30分前になっている児童があり、朝食・排便・身支度等を行うためには6時半起床を目指すよう個別指導を行っていききたい。		児童17	A	100	65	35	0	0		
	健康観察結果	B	健康観察結果 朝 食 摂 取 9月～11月(93%) 12月(94%)※12月25日現在 起床・就寝時刻:全員守れた日 9月～11月 2日間(3%) 12月(0%)		保護者13	B	82	35	47	18	0	0	

令和2年度 年度末自己評価書

愛南町立長月小学校

		上段 中間期		下段 年度末										
		評価規準 A:目標を達成 B:8割以上達成 C:6割以上達成 D:6割未満												
評価項目		評価指標及び目標値(期待される姿)		学校による考察(◇) 改善策(◆)		評価資料	個別評価	肯定率 4+3	アンケート平均値(100%満点)					
									4	3	2	1	?	
安全・安心な学校づくりの推進	安全・防災・減災教育の充実	防犯・防災・交通安全等に関する実践的な訓練や学習会を通して、危機管理意識の向上を図り、自らの安全確保のために主体的に行動する態度を育成している。	B	◇アンケート対象者すべての肯定評価の割合が高く、危機管理意識の向上が図られている。また地域の方から、登校時の見守り活動がしっかりできているという意見をいただいている。しかし、保護者の2評価が少しあることから、交通安全や生活安全に対する危機意識が十分に持てない児童がいることも分かる。これからも、命を守るためにはルールを守ることが大切であることを継続して伝える必要性がある。 ◆学校では継続して様々な対応訓練を行っていき、その取組をホームページや学校だより、学級通信で知っていただく機会をつくる。2学期は学校運営協議会を中心に、地域の方と一緒に防災について考える機会を設定し、地域全体の防災意識を高める。	教職員8	A	100	43	57	0	0			
					児童18	A	100	65	35	0	0			
					保護者14	B	88	41	47	12	0	0	0	
					地域5	A	100	67	27	0	0	0	6	
					目標値:教職員・児童・保護者・地域の90%以上が肯定									
				A	◇学校では、継続して様々な対応訓練を行ってきた結果、教職員の4評価が伸びたと思われる。また、防災体験学習の様子など、ホームページや学校だよりを通じて積極的に発信した結果、保護者の肯定割合も高くなったと考えられる。学校運営協議会でも防災について協議を行ったが、コロナ禍のため児童と地域によるハザードマップ作りができなかった。 ◆今後も火災を想定した訓練や児童引渡し訓練などを行い、児童に自分の命は自分で守るための実践力・判断力を身に付けさせたり、教職員の危機管理意識を高めたりする取組を行っていく。学校運営協議会では、地域を主体とした避難所運営について協議を行っていきたい。	教職員8	A	100	75	25	0	0		
					児童18	A	100	71	29	0	0			
					保護者14	A	100	29	71	0	0	0		
					地域5	A	100	86	7	0	0	7		
					目標値:児童・保護者の90%以上が肯定									
情報モラルの育成	家庭と連携・協働しインターネットに関する正しい知識を養い、ネットワーク上でのルールやマナーなどの情報モラルの育成に努めている。	C	◇アンケートの結果から、家庭で決めた約束や時間が守れていない児童が多く見られる。新型コロナウイルス感染症による2か月以上の臨時休業中に生活習慣が乱れ、ゲームやインターネットの使用が増えたと考えられる。学校が再開した後も、休日のゲーム等の時間が多すぎる児童がいる。 ◆「我が家のルール」を今年度も作成してもらい、家庭でのルールの徹底を呼びかけていきたい。また、道徳や学級活動の授業を通して、情報モラルの育成に努めていく。	児童21	B	82	53	29	12	6				
				保護者15	D	53	6	47	47	0	0			
				目標値:児童・保護者の90%以上が肯定										
				B	◇中間期は年度初めが臨時休業となり、生活習慣の乱れが見られたため評価が低かった。地区別懇談会の際に、スクールガードリーダーからSNSについての講話を行うなど保護者に啓発する取組を行ったため、年度末は全体として評価はよくなった。しかし、保護者に1評価があるなど個人差がある。「我が家のルール」を作成し、徹底を呼び掛けたが、ルールが守れていない家庭があると考えられる。 ◆休日のゲームやインターネットの使用が多い児童がいるので、週末には、休日指導を確実に行う。また、休日明けには児童の休日の様子を把握し、指導に当たる。愛媛県警察本部少年課が制作した「情報モラル映像教材」を授業で積極的に活用するなど、道徳や学級活動の中で情報モラルの育成を図る。	児童21	A	94	47	47	6	0		
				保護者15	C	71	12	59	12	17	0			
				目標値:児童・保護者の90%以上が肯定										
環境整備の充実	清掃や身の回りの整理整頓を主体的に行い、自ら学びの環境を整える態度を育てている。	B	◇教職員と児童の清掃への取組は肯定率が高いが、児童の身の回りの整理整頓への肯定率が満たしていない。児童の清掃場所への集合は早く、最後まで私語なく取り組んでいる児童が多い。5年生がリーダーとして下級生の良いお手本となっている。ロッカーの整理は、週末に定期的に行っている。机の整理整頓については、すぐに必要なものが出てこない児童がおり、学びの効率化を図るために整理整頓が大切であることに気付かせる必要がある。 ◆朝のボランティアや清掃をがんばっている様子を称賛し、気持ちよく働くことの良さを知ることで、勤労奉仕の精神を培わせる。ロッカーや机の整理整頓については、終わりの会で点検する時間を設けることで、乱れに気付いたり自分が整えたりする機会を作る。	教職員9	A	100	14	86	0	0				
				児童19	A	94	41	53	6	0				
				児童20	B	88	47	41	12	0				
				目標値:教職員・児童の90%以上が肯定										
				B	◇清掃への取組は肯定率が高いが、自らの学びの環境を整えること、身の回りの整理整頓に課題がある。中間期の目標として掲げていた「終わりの会でのロッカーの確認」が実施に至らなかったため、向上が見られず、評価が下がったものと思われる。くつのかかことや、トイレのスリッパ、ロッカーの整理など、自分の始末を落ち着いて最後までできる児童が少ない。使用した後、次の人のことを思いやる気持ちや、自分の次の作業に取りかかりやすい環境作りが必要であることに気付かせることが大切である。 ◆朝のボランティア作業では、時間前に作業を始める児童が多く、気持ちよく働いていることへ称賛を続ける。また、「ととのえる」強調週間の取組を行うことで、児童が整理整頓の大切さに気づき、自分で正していけるようにさせたい。また、帰りの会でロッカーや机の中を整える時間設定も全学年確実に行うよう実践していく。	教職員9	C	75	25	50	25	0		
						児童19	A	100	47	53	0	0		
				児童20	C	77	24	53	23	0				
				目標値:教職員・児童の90%以上が肯定										
教職員の資質・能力の向上	教職員の資質能力の向上	授業力や生徒指導力の向上を目指して、校内研修や自己研鑽に努めている。	A	◇本校の研究テーマに沿って、積極的に研修に取り組んでいることや、研修会でためになる資料を準備していただいたり、授業研究等の話し合いが活発に行われたりしていることが、A評価につながっていると考えられる。しかし、3評価が多いのは、日々の忙しさで、思うように自己研修ができないためと思われる。 ◆授業力や生徒指導力がさらに向上できるように充実した研修会を目指す。自分で研修したいことを明確にし、忙しい中でも、自己研修を行う時間を作る。	教職員10	A	100	29	71	0	0			
					目標値:教職員の90%以上が肯定									
				A	◇4評価が多くなっている。日々の授業で、児童の学力向上を目指したり、主体的、対話的で深い学びを実践したりしてきたためであるとされる。授業研究も積極的に行い、授業力の向上に努めた。教職員全員が同じ目標を持ちながら組織的に研修に取り組むことができた。また、生徒指導力の向上に向けて、校内研修会を通して、児童の様子を共有し、児童理解に努めることもできた。 ◆主体的、対話的で深い学びに向けて充実した研修会を目指す。また、児童の様子を共有し、全教職員で児童を見守っていく。さらに、自己研修にも努めていく。また、GIGAスクール構想に向けての研修を充実させ、4月からすぐに取り組めるようにする。	教職員10	A	100	63	37	0	0		
			目標値:教職員の90%以上が肯定											
	組織力のある職場づくり	報告・連絡・相談・確認の習慣化を目指し、温かく、風通しのよい組織力ある明るい職場づくりに努めている。	A	◇新型コロナウイルス感染症や大雨警報発表に対する安全確保を通じて、学校長を中心とした危機管理の重要性を学び、迅速な報告・連絡・相談・確認が十分にできたことが、A評価につながったと考えられる。また2校時と3校時の間の休み時間が20分あるため、職員室に全教職員が集えることで、情報の共有場面や会話が増えた。 ◆2学期以降も子どもの命を守るという責任を持って、迅速な報告・連絡・相談・確認を継続して行っていく。また、管理職を中心に、何でも相談できる、情報を共有し合える風通しのよい職場づくりを目指していく。	教職員11	A	100	37	63	0	0			
					目標値:教職員の90%以上が肯定									
			A	◇教職員の危機管理意識を高める取組から、報告・連絡・相談・確認の重要性を認識することができた。しかし、報告・連絡・相談は教職員間で十分に行えたが、確認することが個人的、組織的に不十分だったと考えた教職員が数名いた結果、4評価が少なくなったと思われる。職員室の雰囲気は更に良くなり、情報の共有場面や会話が増えた。 ◆今後も、迅速な報告・連絡・相談・確認を習慣化するように努めていく。3学期は、新型コロナウイルス感染症を中心とした迅速な報告・連絡・相談・確認の重要性と連絡方法をしっかりと認識し、連携した組織づくりを目指していく。	教職員11	A	100	13	87	0	0			
				目標値:教職員の90%以上が肯定										
総合評価	学校運営協議会委員の所見(中間期)	課題点である一つ目の「健康な生活習慣の確立」では、学校があるから早起きはできているが、ゲームやインターネットをするため早寝は難しい状態であることがうかがえる。親も起きているので子どもも起きているといった家庭も多いと思う。そこで、子どもが寝る時間には親もテレビやネット等をやめて、子どもが寝るまで責任を持って様子を見る必要があると思う。 二つ目の「情報モラルの育成」では、家庭においてインターネットやゲームの制限の決め方が難しい。ネットは正しく使うとよいことが多くあるので、制限するのは難しいからである。また、友達との通信を自分の家だけで規制しても相手があることなので難しい。ややもすれば、仲間はずれが起きかねない。そこで、学校である程度ルールを決めると、家庭も従うようになると思う。また、学校が宿題を多めに出すことで、ゲームの時間を少なくすることもよいと思う。そして、繰り返し「守ってください。」と家庭に呼び掛けるとよい。												
	学校の対応(中間期)	「健康な生活習慣の確立」では、学年に合った就寝・起床時間が習慣化できていない児童が多いため、朝のチェック時に実際の時刻を確認した上で、各家庭の事情を連絡ノート等で把握していく。また、就寝起床時間を守ることは病気に負けない強い身体を築くことにつながり、学力向上、精神的安定を図る上で睡眠時間の確保が重要であることを理解させる。そして、実行できるよう保健だよりや放送で伝えていく。 「情報モラルの育成」では、「我が家のルール」を夏季休業中前に作成してもらった。家庭でのルールの徹底を呼びかけていきたい。また、道徳や学級活動の授業を通して「我が家のルール」のコピーを活用し、情報モラルの育成に努めていく。												
	学校運営協議会委員の所見(年度末)	課題点である一つ目の「読書活動の充実」では、学校でジャンルを決めてコーナーごとに借りてから感想を書かせたり、親と一緒に読んだりするような活動を行う。また、先生や地域の方からのお勧めの本を紹介してもらおうようにするとよいと思う。 二つ目の「情報モラルの育成」では、保護者と学校が連携し、繰り返し時間の使い方を考えさせる。また、ゲームの時間を減らすために休日は、地域の伝統芸能を学ばせることもよい。しかし、学校の協力がなく、多くの児童が参加するのは難しい状況である。しかし、スマホは生活の一部であり、親でもしているの、指導はなかなか難しいと思う。												
	学校の対応(年度末)	「読書活動の充実」では、ブックランド委員会が、様々なジャンルのお勧めの本を屋の放送や集会等で紹介する。また、教職員や学校運営協議会委員から、お勧めの本を紹介してもらい、児童に伝える。 「情報モラルの育成」では、「情報モラル映像教材」(愛媛県警察本部少年課作成)や情報リテラシー(愛媛県総合教育センター作成)を全学年が授業で活用し、心に響く指導を行う。週末の終わりの会で、時間の使い方など、休日の使い方を指導する。週初めの朝の会で、休日の使い方の様子を振り返る。また、養護教諭が、ゲームやネットを多く使うことで起きる体の異常について、集会等で指導する。このような取組をホームページや学級通信、学校だよりで紹介する。												